

講演年月日 2006年5月15日(月)
講演者 加藤 好郎氏 (慶應義塾大学国際センター事務長)
テーマ 私立大学図書館における国際交流活動の現状と今後

講義内容

はじめに

国際交流に関するパーソナルヒストリー

- ・学生時代...エジンバラ
 - ・カタログ時代...UC Berkeleyにて三井文庫の整理(1年で3,000冊)
 - ・現在(慶應義塾大学国際センター)...留学生・帰国子女入試の改革(日本式入試の廃止)
1. 日本の国際化(=高度な学習社会の構築)とは
- ・明治の国際化=福澤諭吉の功績 各種翻訳(Bookkeeping=簿記)・著作権の導入
 - ・異文化コミュニケーション 価値観 常識 文化に基づく行動・言動による真のコミュニケーション
 - ・知的産業時代の到来 20世紀の日本=工業化時代 21世紀の日本=高度な学習社会
 - ・グローバル化 国際的な対話により、各国の主体性と文化的価値観を認識
 - ・成果主義への発想の転換 経営責任の明確化
2. 大学の国際化(=教育転換)とは
- ・国際人の予備軍を育てる
国際人とは 人並み以上の知性、体力、感受性、説得力等の様々な能力を持ち、国益を考え、時代の先端を走り、世論を作り、社会をリードする人、さらに外国語が上手で、外交感覚に優れ、対人サービスができる人
精神的(Stress)に強い人
 - ・国際人を育てる必要条件 資金の確保・少人数制の授業・理念と技法の追求・潜在能力の開発
 - ・大学職員の国際化 職員レベルの向上 「職員であり、大学行政等の教員であれ」
3. 大学図書館の国際化(=専門職制の確立)とは
- ・さらなる教育支援 ライブラリー・アウェアネス・情報リテラシー教育・図書館とクラスの連携
 - ・研究支援の必要性 図書館員と教員の共同プロジェクト
 - ・研修計画 修士課程修了・デジタルライブラリーコース・私図協パブリックサービス分科会
4. 慶應義塾大学図書館の国際化(=図書館員育成)とは
- ・図書館員の交換協定(UCSD, TRONTO 大学)
 - ・洋書の補修・修復・保存調査(アイルランド・ケニーズ)
図書館員を積極的に海外研修へ。
 - ・PRDLA(環太平洋電子図書館会議)開催(2002年)
 - ・EDC(European Documentation Centers) Basic seminar

- ・ GIF(Global III Frame work)プロジェクトへの参加
- ・ ICPSR(Inter-University Consortium for Political and Social research)総会に参加
- ・ NCC(North American coordinating Council on Japanese Library Resources)総会に参加
- ・ OCLC ディレクター会議参加
- ・ RLG のジェネラルメンバーに (2002 年 10 月)
海外各種会議、プロジェクトに積極的に参加。

5 . 私立大学図書館協会の国際化 (= 図書館員の意識改革) とは

1998 年 10 月 国際図書館協力委員会設置

- ・ 資料運搬作業 1995 年 3 月 ~ 2002 年 3 月 12 ヶ国 31 機関(26 大学)、52,697 冊(50 件)
- ・ 国際シンポジュームの開催 2002 年 ~ 主に米私大図書館より講演者を招聘
- ・ 海外集合研修 OCLC ・ RLG ・ Duke Univ. ・ Stanford 等への訪問研修 1 週間の短期研修
- ・ 海外派遣研修 6 週間プログラム ・ アソシエートプログラム

さいごに

私立大学図書館のグローバルなコンソーシアム、リソースシェアリングの構築

「世界 (将来)」を見据えて、足元を固めて」「Seeing is believing」 チャンスを捉えて海外へ